

公益財団法人青森学術文化振興財団
令和5年度助成事業総括表

区 分	件数 (件)	金額 (円)
県内の地域における学術・文化の振興に係る事業に対する助成	53	22,922,000
①地域の振興に係る研究事業(ポストコロナ地方創生枠)	1	1,159,000
②地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)	12	11,601,000
③地域の振興に係る研究事業(一般)	22	6,094,000
④公開講座開催事業	17	3,768,000
⑤学術図書出版事業	1	300,000
青森公立大学の国際交流を中心とした教育活動に対する助成	3	4,860,000
⑥人材育成事業	2	4,318,000
⑦国際交流・教育事業	1	542,000
合計	56	27,782,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

① 地域の振興に係る研究事業(ポストコロナ地方創生枠)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森中央学院 大学地域マネ ジメント研究所	研究員 竹内 紀人	大学生による関係人 口受入支援組織の 構築に関する実証研 究事業	本事業は、大学生が「関係人口」の受 入支援組織を形成し、行政その他の 団体と連携して地域の関係人口増加 に貢献することを目的とする。初年度 は、ワーケーション参加者との交流プ ログラムを自ら企画・実施すること により、参加者との直接的な関係性構 築を進める。本事業の実施により、大 学生が地域の魅力を再認識し、シビッ クプライドが醸成され、彼らの定住志 向や将来に向けた地域貢献意欲に繋 がる効果もある。	1,159,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	教授 遠藤 哲哉	ポスト・コロナにおける地域イノベーション創発モデルの展開：コミュニティMICEのプロトタイプ型実践研究事業	MICEとは、一般的に企業(行政、大学)等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、この「MICE」のプロモーションを、ポストコロナ禍の状況下において、イノベーション、コミュニティ・地域経営的視点から実施する。	1,000,000
2	青森公立大学	教授 佐々木 てる	伝統文化のアーカイブ化～青森ねぶた祭を中心に～事業	これまで比較祭礼調査を行ってきたが、それぞれの地域で調査を行う際に、資料などのデータ収集が困難な場所が多いことがわかった。青森の伝統文化についても同様なことがいえ、主に口承伝聞が多い。こういった現状から伝統の継承のため、すぐにでも体系的、集約的なデータのアーカイブ化が必要だと考えた。本事業は特に青森ねぶた祭の伝統を継承し後世に伝えるためのアーカイブ化を目的とするものである。	1,000,000
3	弘前大学	農学生命科学部 助教 藤井 祥 地域創生本部 助教 辻本 侑生	八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」の色変化メカニズムの解明と地域資源化に向けた研究事業	八戸市糠塚地区では「糠塚きゅうり」と呼ばれる伝統的な品種のキュウリが栽培されている。このキュウリは果実の表面が黄～赤色に変化しやすい性質をもち、地域外への流通が困難とされる。本研究事業では、糠塚きゅうりの果実における色変化メカニズムを分子生物学的に解明するとともに、色変化に関する地域住民や流通関係者、消費者の認識を紐解くことで、糠塚きゅうりの地域資源化と栽培継承に資する知見を得ることを目指す。	653,000
4	弘前大学	名誉教授 佐原 雄二	シナイモツゴの保護に関する実践的研究事業	青森市指定文化財である「又八沼に生息するシナイモツゴ」の生息地である又八沼に、シナイモツゴと近縁で交雑が可能なモツゴが混入していることが明らかとなり、このままではシナイモツゴが絶滅する可能性があることから、又八沼からモツゴを駆除し、シナイモツゴを保護するための実践的研究を行うもの。	1,000,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
5	青森県立保健大学	助教 熊谷 貴子	青森県の子どもの肥満や痩せに関する支援の実態とニーズ調査事業	本研究事業の目的は、青森県(以下、本県)の子どもの肥満や痩せの改善・予防対策として、肥満や痩せの子どもやその保護者がどのような支援を受け、または支援を望んでいるのか実態を把握することである。そして、その結果を青森県の子どもの健康増進にかかわる対策の一助とする。本県の子どもの健康課題改善なしには、健康寿命、平均寿命の延伸はなく、地域振興にもつながらない。したがって、支援のニーズ把握が重要である。	1,000,000
6	青森大学社会学部	教授 榎引 素夫	北海道新幹線・札幌延伸への準備および北陸との協働-青函エリア発『新幹線学』構築の試みと提言(1)-事業	2031年春に控える北海道新幹線・札幌延伸への対応を一つの目標として、人口減少と高齢化が加速する青森県／青函圏域をどう再デザインしていくか、その手がかりを探るための調査と実践を試みる。2024年春の北陸新幹線・敦賀延伸を舞台に、高速・高規格鉄道である新幹線が地域にもたらす変化や確認するとともに、協働の構築、青函圏と北陸の文化的・経済的交流の可能性を探り、「県人口100万人切れ」時代に備える。	966,000
7	青森大学附属総合研究所SDGs研究センター	センター長 藤 公晴	青い森におけるローカルSDGsのシナリオ創出に関する調査研究②事業	本事業は、中長期的な研究プロジェクトの2年度にあたる研究調査で、エコ農産物、木質バイオマス、人づくりの三つの公的なテーマにかかる定着シナリオの創出を目的に、各分野の個人、事業者などによる様々な取り組みを主にアクションリサーチを通して整理し、それら取り組みの連携化を目指すものである。これらの調査に学生や若者、市民の参加機会を埋め込むことを目指す開放型調査プロジェクトでもある。	1,000,000
8	青森中央学院大学	教授 中村 陽一	学生版起業塾の開催並びに環境整備研究事業	行政や教育機関の取組みにより、近年、ビジネスアイデアの提案や、奨励的な取組は増えているが、学生が起業に関する実践的方法論にふれる機会が少ないことから、実際にアイデアを発展させ、次の展開を目指すような例は多くない。 そこで、起業や社会課題への挑戦意欲をもつ若者が次の一歩を踏み出すためのスキルやマインドを育てる実践的な取組を行い、社会課題に実践的に取り組む若者を輩出するプログラムづくりの研究を行う。	1,000,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

② 地域の振興に係る研究事業(チャレンジ)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
9	柴田学園大学	准教授 前田 朝美	腎疾患の発症予防におけるリン酸の栄養生理学的研究事業	青森県の腎不全による死亡率は全国水準より高い。腎疾患の重症化は透析導入により生活の質を低下させる。健康寿命の延伸には腎臓を健全に保つことが重要である。本研究では腎臓の機能維持に大切な血中リン酸コントロールに小腸と肝臓がどのように関与しているか代謝機序を動物実験で明らかにする。また、リン酸は多種多様で加工食品に用いられる。青森県民の摂取状況を年代別に調べ、リン酸の適正な摂取方法を検討する。	996,000
10	八戸工業大学 工学部	教授 田中 義幸	おいらせ町のハクチョウとその生息環境を理解することによって、間木堤および下田公園の未来を考える事業	間木堤におけるハクチョウやそれを取り巻く環境について明らかにすることにより、おいらせ町民や青森県民が地域の自然環境を深く認識し、その未来を考えるきっかけとなることを期待できる。 おいらせ町出身の研究室学生に卒業研究の一環として本事業に取り組んでもらうことにより、若者が、自らが所属する地域の自然の価値を見つめなおし、地域の一員として、その未来を考えるきっかけになることを目指す。	1,000,000
11	八戸工業大学	講師 東方 悠平	東南アジアのアーティストとの交流を通じ、文化活動を通じたダイバーシティ社会の推進を目的とする事業	アーティスト・イン・レジデンス(AIR)の研究実践を元に、事業を行う。1つは、フィリピンにおけるアートコミュニティを現地でリサーチして、AIRや芸術文化の地域における機能を調査し報告会を青森県で行う。もう1つは、フィリピンからアーティストを1名、八戸市へ招へいする。約1ヶ月間滞在してもらい、期間中のワークショップ、トークイベントなどを通じて地域の人たちと交流する。	1,000,000
12	八戸学院大学	講師 井上 丹	浅虫地域における持続可能な観光振興・地域づくりのための実証調査事業	少子高齢化が著しい観光地として青森市浅虫地域を対象に、地域全体の利益を目的とし、地域住民と地域事業者、外部協力者が協働しながら持続可能な観光振興・地域づくりを目指す仕組みや体制を構築する。 3年目は、地域づくりや地域おこし活動を実施している中学生、高校生、大学生、社会人を巻き込み、観光振興企画やイベント等を計画から実行できる機会を長期的に設けて、浅虫の関係人口増加に貢献する。	986,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	教授 佐々木 てる	地域ねぶたの活用と地域活性化～青森市の地域ねぶたの存続と市外地域への活用～事業	新型コロナウイルス感染症の影響は、本祭である「青森ねぶた祭」のみならず、地域における活動も停滞させた。特にコロナ前は70の地域がねぶた運行を行っていたが、令和4年は約半数となっている。そればかりか、令和4年を最後に地域ねぶたを取りやめるといふ地域も出始めている。事業はこうした地域ねぶたの存続に関して、その継続法を考えるための事業である。令和5年度は特に地域ねぶたの課題に関して調査する。	300,000
2	青森公立大学	教授 丹藤 永也	青森県内の中学校英語科におけるライティングパフォーマンス評価の実態調査に関する研究事業	本事業の趣旨は、令和3年度に全面実施された学習指導要領のもと、青森県内の中学校英語科で行われているライティングパフォーマンス評価の実態についてアンケート調査を実施し、その分析からライティング指導やパフォーマンス評価における課題を明らかにし、具体的な解決策を提案することである。	289,000
3	青森公立大学	講師 江連 敏和	新型コロナウイルス(COVID-19)に関する県内各市町村と外国自治体との行政広報の国際比較事業	青森県庁および青森県内各市町村が提供するCOVID-19情報と、外国政府や各国の地方自治体が提供する情報を比較対照し、県内行政におけるCOVID-19広報のあり方を研究する。最終的には、伝染力の高い疫病に対して、地方自治体が地域の特性を活かしつつ、どの種類の情報をどのような優先順位で伝達すれば情報の送り手・受け手として有益であるのか検証する。将来的に新たな疫病の発生時に役立つためである。	132,000
4	青森公立大学	教授 香取 真理 地域連携センター事務長 鹿内 一徳	学習者指向の遠隔英語授業の試行事業	2020年以降パンデミックの広がりにより「遠隔」授業形態は様々な場面で応用され、外国語教育においても取り入れられることとなった。しかし、この急速に広がりを見せた現在の遠隔授業に関し、その欠点や効果的な方法論については殆ど検証されていない。本事業では約30名の学生を対象に1学期間英語遠隔授業を試行し、その検証結果から有効かつ適用範囲の広い遠隔授業の方法論を提唱する。	300,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
5	弘前大学	研究機関研究員 ムラノ 千恵	白神山地における侵入初期のニホンジカの冬季選好食性の解明事業	白神山地に、ニホンジカが侵入しつつある。進入初期段階でシカが選好的に利用する植物種を特定するため、白神山地周辺地域でニホンジカのフンを採集、DNAメタバーコーディング解析によって利用されている植物種を特定する。進入初期に影響を受けやすい植物種や、注目すべき植物種を特定し、シカの影響の検出能力を高めることは、今後の植生変化のモニタリング手法の確立や植生の保全活動にとって重要な知見となると考えられる。	300,000
6	青森県立保健大学健康科学部栄養学科	教授 七島 直樹	ハマナスが含有するティロロサイドの定量および機能性の解析事業	青森県内に自生するハマナスには、ティロロサイドという成分が含有されているが、その量と保健機能性は未知である。本研究では、ティロロサイドの植物性女性ホルモン効果と皮膚美容効果に着目して、これらの機能性を評価する。ハマナスは青森市の花として制定されており、本県ともゆかりも深い。本事業の遂行は、将来的にはハマナスを用いた産業の発展へと繋がることと期待されることから、地域の振興に寄与すると考えられる。	212,000
7	青森大学社会学部	教授 秋田 敏博	「ぬい撮り」を活用した異世代間交流学習プログラムの開発事業	小学生が地域の人たちを含む年長者と交流しながら郷土学習をすることは、ふるさとに対する愛着心を育み、将来地域に定住することや、Uターンすることにつながる。このような状態を目指し、小学生が、大学生や地域の人たちと交流しながら、「ぬい撮り」を活用して現地訪問型の郷土学習をし、その成果をポスターにまとめる学習プログラムを開発、実践する。(「ぬい撮り」とは、自然風景などを背景にぬいぐるみを撮影すること。)	300,000
8	青森大学附属総合研究所	客員研究員 久慈 きみ代	川のある風景と文豪の関係研究事業	太宰治は、旧制青森中学時代、青森市に下宿し、合浦公園に隣接した中学校に通学。堤川の流れを眺め、作家になる決意をする。寺山修司にも堤川は、特別な通学風景であった。二人の作家(作品)と堤川の風景には密接な関係が窺える。 川と作家の関係には、以前から知られる例がある。朔太郎と前橋市の広瀬川や利根川、金沢市の犀屋と犀川、鏡花と浅野川。これらの関係の内実を考察し、川の風景と文豪の関係を探る事業である。	300,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
9	青森中央学院 大学経営法学部	名誉教授 高橋 興	地域おこし協力隊の 活用による公営塾開 設の成果と課題に関 する研究②事業	近年、中山間地を中心に教育政策の 観点だけではなく、人口減少対策の一 環として公営塾を開設する市町村が、 全国的に増加している。注目すべき は、必要経費節減及び指導者の確保 等の手段として地域おこし協力隊員 活用事例が増えていることだ。こうし た状況を踏まえ、本調査研は、従来の 公営塾開設に関する研究成果を活かし つつ、地域おこし協力隊員活用によ る公営塾開設の成果と課題に重点を おくものである。	299,000
10	青森中央学院 大学地域マネ ジメント研究所	研究員 阿部 光	地方都市の地域生 活支援に求められる 精神科デイケア等施 設の治療環境に関 する研究事業	近年の精神科医療施設は、療養空間 を治療要素と捉え質向上が図られつ つあるが、外来患者の地域生活を支 援する精神科デイケア等施設は建築 学的研究に乏しい。本事業では、外來 受療率が全国的に高く、施設ニーズも 高いと考えられる青森県における、精 神科デイケア等施設の通所者属性と 空間利用実態を継続的に把握するこ とで、精神科デイケア等施設に求めら れる治療空間のあり方を検討するた めの基礎的資料を得ることを目指す。	300,000
11	柴田学園大学	講師 花田 玲子	健康づくりの食事の 質の評価と活用に関 する研究事業	健康な身体づくりには、栄養効果を考 えた食事が不可欠である。健康づくり の食事の質の評価がわかりやすく示 されていることは、質の高い食事を選 択する動機づけとなり、実行に結びつ く。栄養密度による健康スコア、作りや すさによる調理スコア、おいしさや楽し みなどの喫食スコアにより、食事の質 を一目でわかるように示すことで、容 易に健康食づくりが可能となる。行動 変容につなげる評価基準の設定と活 用を目指す。	290,000
12	柴田学園大学	助手 佐藤 梨沙	食の嗜好性と健康づ くりを考える事業	人の「食の嗜好性と健康」を念頭に、 高等動物を用いた基礎研究の成果を 活用し、味覚における健康増進や疾 病予防を明らかにし、地域の食育活 動に導入する。嗜好性が異なる食餌 を実験動物にカフェテリア形式で自由 に摂食させ、いつ、何を、どれくらい摂 取するのかを調べる。嗜好性の多様 性に孤食と集団食の異なる食環境と 雌雄の違い、そして青森県民に多い 糖尿病や肝障害などの病態にどのよ うに関連するのかを検討する。	299,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
13	柴田学園大学	助手 齋藤 望	規則正しい食事スタイルと嗜好性から肥満予防を検討する事業	本研究では、生体リズムの睡眠・覚醒リズムと甘味、脂肪味の認知閾値の関連を明らかにし、規則正しい食事スタイルを数日間継続した際、甘味と脂肪味の感じ方は改善するかを検討する。これまで、エネルギー不足の状況を朝食欠食や運動負荷の状況により再現し、エネルギー摂取に関連する甘味と脂肪味の認知閾値がどのように変化するかを検討してきた。本研究では生体リズムとエネルギー摂取の関係を味覚の面から検討する。	298,000
14	柴田学園大学	助手 織田 夏海	空腹時の脳活動に大切な肝臓グリコーゲンとリンゴ摂取の栄養生理学的意義に関する研究事業	健康寿命の延伸には、適切な食生活と持続可能な運動が重要である。青森県の特産品であるリンゴの摂取が、運動だけでなく脳活動に重要な肝臓グリコーゲンに与える効果を調べる。本事業は、県民の健康づくりにおけるリンゴの科学的根拠を見い出すことを目的とした。	299,000
15	柴田学園大学	助教 古村 和歌子	市販食品における食品添加物の実態調査事業	近年高齢化の進展、共働きおよび単身世帯の増加、生活スタイルの多様化によりニーズが高まっている調理済み食品や加工食品は、利便性が高いだけでなく質の向上により購入量は増加している。一方で、使用されている食品添加物は多様で疾患予防に影響する成分もある。本研究は市販食品の食品添加物に着目し、青森県の加工食品の利用とその食品添加物の摂取について実態調査を行う。また、表示義務のないリン酸の含有量を分析する。	174,000
16	柴田学園大学	准教授 奥野 海良人	青森県発の微生物による脳機能維持に関する事業	うつ病は働き盛りの年代によく発症し、自殺に至る脳神経疾患である。その発症原因は明らかではないが、脳内の慢性的な炎症が関係していることは明らかである。そこで本研究はプレバイオティクス(腸内環境を変化させる食品成分)として青森県に特有な微生物を用い、アミノ酸のトリプトファンから合成される内在性の抗炎症物質(キヌレニン等)を調節することで脳内炎症を抑制し、最終的には脳機能を健全に保つことを目的とする。	298,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
17	柴田学園大学 短期大学部	特任教授 北山 育子	津軽地方の郷土料理の研究事業	近年、食生活の画一化、食の外部位化などにより、伝統料理の世代間の伝承が途切れる場合が多くみられる。地域に伝承されている郷土料理の保護・継承のために、レシピの収集、研究は重要である。本研究では、津軽地方沿岸地帯の知的財産でもある既存の海藻料理のレシピを再度検討し、作りやすく味付けに配慮した健康的なレシピを提供をする。地域・家庭において、海藻類を使用した郷土料理の保護、継承に寄与することを目的とする。	300,000
18	柴田学園大学 短期大学部	助教 宮地 博子	青森県地方公務員における運動習慣に関する実態把握事業	青森県は男女共に平均寿命が全国最下位の「短命県」である。理由として「塩分過剰摂取、運動不足」が指摘されている。塩分過剰摂取については「だし活」・「だす活」などの活動が実施されているが、運動不足についての取り組みである「健やか隊員」の育成などは、県民に周知されるまでには至っていない。運動について、今後どのような支援が必要か検討するにあたって、運動習慣(身体活動状況)の実態把握が必要ではないかと考えた。	300,000
19	八戸工業大学	准教授 川守田 礼子	地域伝統文化の価値再評価と共有を目指した「南部菱刺し」有形民俗文化財の活用に関する調査研究事業	南部菱刺しの高度な伝統的技術を示す資料に、古作と呼ばれる染織資料がある。古作に見られる手わざや図案を南部菱刺しの製作や研究の参考としたいという需要が高い。そこで本事業では、南部菱刺し染織資料を書籍化することで、地域伝統文化の価値の再評価と共有を目指す。青森市教育委員会所蔵の有形民俗文化財「青森の刺しこ着」のうち、南部菱刺し染織資料を撮影し、写真集を製作し、県内教育機関に配布する。	300,000
20	北里大学	准教授 長坂 善禎	RTKGNSSとステレオデプスカメラ、超音波センサを利用した植物生育調査の省力化事業	作物の生育調査には竹尺で寸法を計測し、野帳への記録後にPCにデータを入力する方法が一般的である。4年度の本事業ではステレオデプスカメラと高精度GNSS等を利用した計測システムを構築し、生産現場でエゾノギシと飼料用トウモロコシの画像と位置情報を記録し、後処理により株の大きさ、位置等を計算した。5年度は対象を大豆、食用トウモロコシとし、処理プログラムを開発して計測データ処理を高速化、高精度化する。	296,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

③ 地域の振興に係る研究事業(一般)

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
21	北里大学獣医学部	助教 大出 亜矢子	十和田八幡平国立公園における光学画像による環境評価法の確立の事業	青森県の十和田八甲田地域は、国立公園に指定され、溪流や湿原群等、保全が必要な環境変化に脆弱な自然環境を有する。溪流や湿原に着生する蘚苔類は微細な環境変化に鋭敏に反応する汚染指標生物であるが、出現種やその活性度の評価には技術的課題がある。そこで本研究では撮影された写真やスペクトル等の光学的方法から蘚苔類を自動で識別することで、非破壊非接触で溪流、湿原の環境を評価する手法の確立を目的とする。	300,000
22	地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所	栽培部長 前嶋 敦夫	ニンニクの生育ステージを外観から推定する試験研究開発事業	令和4年度の結果においてニンニクの葉耳高に着目することでりん片分化期を推定できることが示唆されたことから、この年次変動の確認を目的に、ニンニクの外観の変化とりん片分化の有無の関係を明らかにするとともに、品種間差の有無も確認し、農家レベルでりん片分化を推定できる方法を検討する。また、りん片分化期後から5月中旬頃までの葉耳高と茎径の関係から収穫適期を推定する方法についても検討する。	208,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

④ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	教授 藤井 一弘	2023年度青森公立大学大学院公開セミナー事業	現在、地域がかかえている諸課題は多様かつ複雑で、既存の資源に既存の見方を適用するだけでは解を見出せず、その解決に向けては、複数かつ新たな視点・視座から柔軟にアプローチすることによる、発想の根本的な転換が求められる。本学大学院の科目担当者が、日々、取り組んでいる研究活動は、この多様・柔軟なアプローチの一環をなすものであり、その一端を、2023年度の大学院公開セミナーにおいても、引き続き披露する。	180,000
2	青森公立大学	教授 佐々木 てる	公開講座ねぶた学事業	令和4年、第5代名人である千葉作龍氏が引退した。それを引き継ぐように、最後の弟子である吉町勇樹氏がデビューした。こうしたねぶた師の技術の流れは、一つの伝承となって、次世代に紡がれていく。本年度のねぶた学では、千葉作龍名人の足跡をたどるとともに、その流派を考えるため、ゆかりのあるねぶた師によって講座を開催する。	300,000
3	青森公立大学	准教授 大森 史博	浅虫てつがく対話事業	子どもから大人まで参加できる哲学対話のワークショップを浅虫で開催することにより、解き難い問いをじっくりと考えることができる対話の場を地域に形成する可能性を探る。歴史的・文化的・芸術的な足跡の刻まれた浅虫は、青森を象徴するランドマークの一つといえる。その地に、他者と出会い、言葉を交わし、ともに考える哲学対話の場を開設することにより、モデルケースとして実践的に検討したい。	194,000
4	青森公立大学	講師 エシアナ ベネス	外国語講座事業	参加者の語学力と幅広い興味に対応できるよう、 ・異文化の理解、 ・英語検定(TOEIC等)、 ・一般的な英語学習(一般英語、ビジネス英語)、 ・英文学入門、 などについての講座を開催し、受講者の語学レベル及びコミュニケーション能力の向上を目的とする。	124,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

④ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
5	弘前大学大学院保健学研究科	准教授 北島 麻衣子 助教 橋本 美亜 助教 高間木 静香	育児中の母親のためのリフレッシュ講座事業	本事業は、地域で子育てをしている母親を対象に、リフレッシュ講座を開催するものである。この講座の実施により、地域で子育てをしている母親が心身ともに健やかに生活していくための一助とすること、ならびに、講座の開催を通じて教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に地域社会から学ぶ機会とすることを目的としている。	160,000
6	青森中央学院大学地域社会活動委員会	委員長 教授 成田 昌造 委員 准教授 楠奥 繁則	青森中央学院大学特別公開講座事業	「まち・ひと・しごと」づくりにかかわる課題の解決を目指し、時宜にかなったトピックを抽出して公開講座を実施する。地域に根ざし開かれた教育・研究の拠点である本学において、専門的知見や先鋭的視点から課題解決や将来戦略構築のヒントを探り、地域や市民と共有することを目的とする。	279,000
7	青森中央学院大学地域社会活動委員会	委員長 教授 成田 昌造 委員 准教授 楠奥 繁則	青森中央学院大学市町村長リレートーク事業	地域経営の現場で日々、実際的な課題にリーダーとして取り組んでいる市町村長から直接話を聞くことを通じて、地域のさまざまな課題とその解決方法を共に考え学ぶ機会を公開講座の形式で一般市民に提供する。	215,000
8	青森中央学院大学地域社会活動委員会	委員長 教授 成田 昌造 委員 准教授 楠奥 繁則	青森中央学院大学まちなかキャンパス市民講座事業	青森市新町商店街にある本学サテライトキャンパス、AOMORI STARTUP CENTER(青森商工会議所)を会場に、市民の関心が高く、気軽に参加できる講座を実施する。	292,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

④ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
9	青森中央学院 大学経営法学 部	教授 竹内 紀人	アナウンス・朗読に 関する公開講座開催 事業	今日のネット社会では、特にSNSの普及により、コミュニケーションの方法が急激に変化している。半面、言葉による対面型コミュニケーションの重要性も再認識されており、伝えるための話し方は、一般社会において必須の能力である。本講座は、一般社会人、学生等を対象として、地域住民の言語力向上を図るとともに、魅力的な「読み」「語り」といった音声技術の向上により、地域の文化振興にも寄与する事業である。	263,000
10	青森中央学院 大学地域マネ ジメント研究所	所長 小松原 聡 研究員 竹内 紀人	青森中央学院大学 地域マネジメント研 究所ビジネスセミ ナー事業	人口減少克服を最重要課題に位置付けている青森県のめざす姿「生活創造社会」の実現における課題の抽出とその解決を目指し、ビジネスに関する時宜にかなったトピックを抽出して公開セミナーを実施する。 地域に根ざし開かれた教育・研究の拠点である本学が主催することにより、専門的知見や先鋭的視点から課題解決や将来戦略構築のヒントを探り、地域や市民と共有する。	220,000
11	青森中央短期 大学	地域連携・研究支援 委員長 教授 鈴木 寛康	青森中央短期大学 連続公開講座事業	主要テーマを「減災・防災」とし、青森中央短期大学3学科(食物栄養学科・幼児保育学科・専攻科福祉専攻)それぞれの特徴を活かした主要テーマにつながる公開講座を開催し、青森県民の防災に対する意識向上の一助とする。	195,000
12	青森中央短期 大学	地域連携・研究支援 委員長 教授 鈴木 寛康	青森中央短期大学 公開講座事業	青森県は、東日本大震災以後も、例年の雪害、今年度の大雨洪水による被害等、多くの災害に見舞われてきた。 青森県民において、災害に対する意識は、平時においても持ち続けなければならないものであり、「減災・防災」を主要テーマとした公開講座を開催することで、青森県民の防災意識の向上を目的とする。	229,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

④ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
13	青森中央短期大学	講師 天間 美由紀	「子どものための心理的応急処置」研修事業	青森県民を対象に、災害など緊急時の子どもの心のケア「子どものための心理的応急処置(子どものためのPFA)」を学ぶ研修会を実施する。また、研修参加者を対象として、その防災意識を測定し、実際の防災・減災行動に結びつけるための取組みを検討する。これらにより、青森県民が平時から災害に備え、発災時に被害を最小限にする行動をとれるよう、防災意識の向上と啓発の方策を示唆する。	214,000
14	柴田学園大学	教授 一戸 智之	柴田学園大学「わくわくカレッジ」事業	青森県の「教育・人づくり分野」の政策・施策を踏まえ、柴田学園大学の教員および学生のこれまで蓄積してきた研究成果の地域への還元を図るために、幼児、小学生、中学生、高校生(親子でも可)を対象とした、学科の特性を活かした様々な趣旨からなる公開講座を開催する。これによって地域コミュニティ活性化の促進、また、体験学習を通じて子どもの健全育成に寄与する。	202,000
15	柴田学園大学短期大学部	学長 島内 智秋 地域文化センター長 中島 里美	柴田学園大学短期大学部公開講座事業	公開講座は、本学の教育研究の成果を広く社会に公開し、学術及び文化の発展に寄与することを目的としている。 本学の伝統と特質を生かしつつ、家政学に注力した「衣食住」から、教育・保育、ICT等の分野まで、多岐にわたる幅広い知識・教育的財産を社会に開放し、地域住民に生涯にわたった学習機会の提供を推進している。	300,000
16	青森中央経理専門学校	校長 石田 憲久 教諭 塚本 大広	青森中央経理専門学校公開講座事業	青森中央経理専門学校は、主に経理・医療事務・観光分野において、社会に貢献できる人材の育成を教育目標とし、地域に根ざし開かれた活動を長年展開してきた。 本事業では一般市民や学生を対象に、金融知識を身に付けてもらう公開講座を、青森駅前にあるAOMORI STARTUP CENTERを会場として実施する。	180,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

④ 公開講座開催事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
17	青森中央文化 専門学校	校長代行 石田 憲久 教諭 竹洞 春佳	青森中央文化専門 学校連続公開講座 事業	生涯学習、地域貢献活動の一環として、青森県の伝統文化のこぎん刺しや、服飾手芸に関する公開講座を実施することで、青森中央文化専門学校と、市民の交流の場とする。 青森市新町通りにある青森中央学院大学のサテライトキャンパス FRIENDLY WINDOWを会場とすることで、青森市中心商店街の活性化を図る。	221,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

⑤ 学術図書出版事業

No.	大学等名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	教授 遠藤 哲哉	学術図書出版「自治体経営と地域イノベーションⅡ」事業	地域創生時代において、イノベーションの創造と自治体経営の改革戦略は、重要性を増している。青森において、起業や新ビジネス創造についての知見と実践の蓄積、教育研究が行われてきており、行政には、イノベーション創造を促進する戦略、実装支援が求められているといえる。筆者の実践に基づき、求められる人材育成と新学習する組織論の観点からまとめる。なお、令和3年度に学術図書出版事業で作成した図書の続編である。	300,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

⑥ 人材育成事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	理事長 石川 浩明	青森公立大学学生のニュージーランド短期語学研修事業	国外の大学・研究機関との連携により、国際化社会に通じる多様な研究活動を行うことを通じて、国際社会の事情や理解促進に向けて、地域の国際交流活動に貢献するという公立大学法人青森公立大学の使命を達成するため、参加学生の語学能力の向上を図るとともに、オセアニア地域における生活を通して国際社会に対する理解を促進し、精神的に自立するための研修を支援する。	4,126,000
2	青森公立大学	理事長 石川 浩明	青森公立大学学生のオンライン語学研修事業	「語学研修(派遣)のさらなる確保を図るため、留学の入門編のような位置づけで実施。留学を検討しているが不安や疑問点により留学に踏み出せない学生のミスマッチの解消を図ることが目的。また、就職活動と両立可能な留学プログラムとして4年生の英語の学修機会を増やすことで、学生支援の拡大を図る。	192,000

公益財団法人青森学術文化振興財団 令和5年度助成事業

⑦ 国際交流・教育事業

No.	大学名	申請者	事業名	事業の趣旨	内定額 (円)
1	青森公立大学	理事長 石川 浩明	シンガポール国立大生との交流事業(AGAP2023)	むつ市が主体となって実施するシンガポール国立大生の本県への短期留学事業「Aomori Global Advance Project 2023(AGAP2023)」の機会を捉え、青森公立大生がシンガポール国立大生と交流し、青森市へのインバウンド客の増加に向けた調査・検討を行うとともに本学の国際交流の推進を図る。	542,000